麗日

第91号 平成28年10月
医療法人
長谷川会 湘南ホスピタル
藤沢市辻堂3－10－2
TEL 0466－33－5111
発行責任者　服部 正明

秋晴れ　撮影：林 敏男

理　念

人を暖かく迎える医療
地域の健康の守り手　高齢者をささえる医療　心を大切にする医療

基本方針

1．良質な医療療養病床・地域包括ケア病床機能の提供
2．外来機能の充実
3．居宅介護支援事業所・訪問看護ステーションの拡充
4．地域とのつながりの強化

地域包括ケアシステムにおける　湘南ホスピタルの取り組み

院長　木原　明子

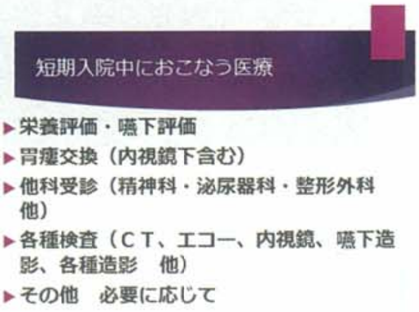
《現在について》 湘南ホスピタルはベッド数が１０４床、病院の種類は医療療養病床です。 看護配置は２０対１です。当院は昭和４年、結核療養所として開設され、その後内科の病院となり、高齢者が増えるに従い、現在の医療療養病床となりました。また、連携強化型在宅療養支援病院でもあります。具体的には、地域の５つの診療所と連携し、そのかかりつけ患者さんが具合が悪くなったとき、入院をお受けし、退院後は元の診療所の先生が引き継ぎます。もちろん、当院にかかりつけの方が通院困難な状態になられた時は、訪問診療や往診をしています。

一方、外来では、内科以外に泌尿器科・精神科・整形外科の診療をしています。これは通院・入院の患者さんが内科以外の疾患をお持ちの場合、院内でご相談いただけるようにするためです。

診療以外では、療養生活を支援するため、様々なボランティアの方の協力が欠かせません（生け花、三味線、あやつり人形、歌、嚥下体操などのレクリエーション、傾聴ボランティアなど）。さらには、研修医や各分野の実習生が多数、当院で研修・学習しています。

過去数年の入院数・退院数の変化を見てみると、入院数・退院数が増え、平均在院日数が短くなり、患者さんが以前より短い期間で治療を終えて退院しています。入院患者数の６９％が自宅や施設からの入院であり、退院患者さんの６４％がご自宅か元の施設に退院しています。

患者さんやご家族を交えて、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など多職種の専門職員が、入院当日、入院後２週間以内、そして退院準備時に、カンファレンスをし、入院当初から出来るだけ早く自宅や施設に帰れるよう、退院支援、在宅を見据えたケアやリハビリに取り組んでいますが、これをさらに充実させたいと考えています。



《今後について》 私たちが地域で安心して最後まで暮らすためのシステム（地域包括ケアシステム）が、各自治体で構築されようとしています。大きな病気やケガをして急性期病院で治療をうけるとき、急性期病院では入院できる期間が短く、しかし完治までに時間がかかる場合、急性期病院から在宅療養に結びつける機能として、地域包括ケア病棟があります。当院では、今後はひとつは地域包括ケア病床のある病棟に、もうひとつは今まで同様に長期療養ができる医療療養病棟に、それぞれの病棟が別の役割を持つことになる予定です。この体制は、来年度よりスタートさせたいと思っています。急性期病院で一定の治療を終えた方については、リハビリや退院支援に力を注ぎ、できるだけスムースに、ご自宅や在宅系の施設に戻れるようにします。また、地域の方やかかりつけの方が肺炎などの急病で入院することになったときは、地域包括ケア病床に入院して頂き、同様に治療ケア、退院支援を行います。退院しても通院が難しい方には、訪問診療や訪問看護をいたします。藤沢市や茅ヶ崎市の各訪問看護ステーションとの連携を大切にしてまいります。また、今後も医療療養病床では長期療養ができることに変わりはありません。

ご心配なことは当院地域連携室に遠慮なくご相談下さい。

～自分らしく暮らし続けるために～ No1

藤沢市医師会　在宅医療支援センター
黒坂　由美子

「日本は世界に類を見ない速さで高齢化社会に突入」

2005年では総人口1億2700万人で、2030年には、1億1500万人に減少し、あと30年過ぎると、総人口が8993万人と1億を切ってしまうといわれています。

75歳以上の人口は2005年には、1160万人、9%でしたが、2030年には、2266万人、20%と膨れ上がっています。2055年には、27%にも達します。

「藤沢市の高齢者人口と高齢率について」

藤沢市の人口総数は（2016年1月1日現在）425,915人、65歳以上の人口は99,280人で高齢化率23.31%です。その中で一人暮らしの高齢者は13,055人（藤沢市一人暮らし高齢者台帳により）、在宅寝たきり高齢者は135人（藤沢市寝たきり高齢者台帳により）です。2025年には藤沢市高齢化率は25.9%と予測されています。藤沢市の地区で、最も高齢化率が高い地区は湘南大庭で28.39%、低い地区は湘南台18.4%です。

「2025年までに医療改革が行われ、全体の10%が病床削減」

病院のベッドは4本の柱に、1高度急性期、2急性期、3回復期、4慢性期と編成され、全体で10%の病床が削減されていきます。

①、高度急性期は大学病院のようにICU等、重症な患者を集中ケアして治療を行います。藤沢市民病院がこの役割です。

②、急性期は一般病院としての機能病院で治療を行います。

③、回復期は、リハビリテーションの機能訓練や自宅へ帰るために病状の安定や在宅復帰のための訓練を行います。

④、慢性期は病状が安定しても医療処置が必要で、継続的に治療できる療養施設へうつっていくことになります。湘南ホスピタルがこの役割です。

従来の医療は、急性期疾患の治療や社会復帰を前提とした「病院完結型」でしたが、これからは、「地域完結型」医療（地域完結型医療とは、地域の中小病院、診療所、介護施設、事業所、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなどと連携して医療を進めていく）へと転換していきます。

「地域社会の変革」

1951年では自宅死が82.5%、病院死が9.1%でした。1975年（昭和50年頃）より、病院施設が数多く増え始め、2009年ごろには、病院死が78.4%と多く、自宅ではわずか12.4%と減少し、現在では、病院死が80%、自宅死はわずか10%に満たないといわれています。

藤沢市においては、2015年のデーターでは病院死が73.6%で、老人ホームが8.02%、自宅死は14.7%でした。

ここで、がん患者を対象に「理想の死と看取りに関する国際比較研究データー」があります。
日本においては自宅での希望が 79.2%ですが、実際には自宅死は 8.2%と低く、理想と現実でのギャップの差が激しい事が分かります。本人は「自宅がいいけど、家族に迷惑をかける」ということ、また、いざという時、どうしていいかわからない等、家族の不安が強いことなども要因の一つとなっています。

「住み慣れた地域で人生の最期まで、自分らしく暮らし続けることが出来る社会」にしていくには、普段から自分の意思をしっかりと医師・訪問看護師・ご家族を含めて、話し合いをしておく必要があります。そして、多職種のチームで連携して、いつでも安心して家族の不安を取り除いていける体制づくりが必要と考えます。

「次回に続く」

新任のご挨拶

総合内科
循環器内科
志波　広輔

はじめまして。9月1日から湘南ホスピタルで常勤医師として勤務することになりました志波広輔と申します。

出身は、横浜市泉区で、そこに2年ほど前まで住んでおりました。同じところに、50年以上住んでいたことになります。

大学は、1度経済学部に入ったのですが、親の希望を果たすべく、国立福井大学医学部に入りなおし、医師となりました。

所属していた医局は、横浜市立大学旧第2内科で、大学病院や藤沢市民病院、神奈川県立循環器呼吸器病センターなどの関連病院では、循環器内科医として勤務をしてまいりました。

12年前に地元で開業し、一般内科医として働きましたが、親と同居しており、医院の運営にも関わっていた両親との間で、すれ違いがあり、熟慮の末、昨年医院を閉じることにしました。この1年は、嘱託産業医と検診の仕事のみ行い、自分の気持ちと体の立て直しをしてまいりました。

振り返ってみると、父親が放射線技師であったことも影響し、病気や健康について関心があった方だと思いますが、一方で医師を志すきっかけとなるような、心揺さぶられる体験があったわけではなく、先ほど述べたように、両親の希望に従った形でこの職業を選んだというのが本当のところです。

開業してからも、事務的な面は親まかせで、診療は一所懸命やっていましたが、多方面に不満が多い、そんな毎日が続いていました。

4、5年前から、自分の人生を少しずつ見直し、両親からの独立を見据えて、2年ほど前から両親と話しあって参りましたが、受け入れられず、完全にすれ違ってしまい、1年前に医院も閉めることになりました。

この1年間、いろいろ学び、考えた末、遅かりしの感はありますが、自分の人生は自分で責任を持つものと再確認し、本当の自分を生き、自他共に受け入れることを大切に、楽しく人生を歩んでいこう、と決めました。

まだまだ未熟な自分ではありますが、やはりこの仕事は嫌いでなく、もうひとたびお役に立てれば、という思いで、職に就きました。不慣れなところはご容赦いただき、どうぞよろしくお願い申し上げます。

志波医師の診療日　月曜　午前・火曜　午後

脳の話について（2）

神経内科
安徳　恭演

前回は、脳に棲む三匹の話をしました。本能を司る爬虫類、感情と情動を駆り立てる野獣、そして、ちょっと上から目線の理論家でした。さて、この三者、一番成熟しているのはどれでしょうか？　その答えは爬虫類です。次をと言われれば野獣、そして、一番偉そうにしていて、実は、最も新しく発展途上なのは、理論家。理論家は脳の進化のフロンティアなのです。それゆえに、理論家は偉そうに見えて案外未熟なところがあるのです。

ここで、我々の食行動について、ちょっと考察を加えてみましょう。我々の眼の前に、何か食べ物、例えばケーキが一切れ置かれていたとします。もし、我々の脳に棲む理論家が爬虫類の意向だけに依れば、腹が空いていれば食べるし、満腹なら食べないことになります。論拠は、単純明快でわかりやすいものです。では野獣の意向を尊重すればどうなるか？　野獣は、好き嫌いを主張してきます。好きなものは食べたいが、嫌いなものは嫌だと、わがままを言います。さらに腐っていないか、毒じゃないかの判別にもこだわりを見せます。

この二者の意向を酌んで、一番上層にいる理論家は決断を下すわけですが、理論家にも理論家なりの理屈があります。まず「このケーキは誰のものか」 食べていいのか？ 他人様のものだと、食べると問題が起きますからね。で、食べても誰も文句は言わないとして、食べると太るんじゃないか？　コレステロールや中性脂肪が上がって、メタボの烙印を押されはしないか？　爬虫類などからすれば、どうでもいい贅沢な理屈が浮かんできます。

腹が減ったら、仕事できないだろう。生命も危ないかもしれないぞ、爬虫類のそんな声が聞こえそうです。野獣に言わせれば、ケーキは好物だろう、食っちゃえ食っちゃえ、でしょうか。こういった声を聴きながら、理論家は、たった一切れのケーキを眼の前にした時でさえ、迷い迷い、決断を下しているのです。

何故迷うのか？　自分の理屈が、爬虫類や野獣に比べて、あやふやだからです。たとえば、健康に良いものの基準は、時代とともに変わっています。昔は健康に良いと推奨されていたものが、今では逆に健康によくないものに変わってしまったものもあります。また、健康の基準さえ変わっています。

つまり、理論家の持つ理屈は、確固たるものではないのです。ですから、迷ったときは、案外、野獣や爬虫類の意向に従うのが正解、ということもありうるのです。

さて、脳にはさまざまな感覚情報が飛び込んできます。感覚とは、俗に言えば「五感」という、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚なのですが、神経内科学の領域では、温痛覚、振動覚、位置覚などという感覚も含めた別な分類がありますが、ここではそれには触れません。

この脳に飛び込んだ情報はそれぞれの感覚に応じた部位に送られ、その後、統合という情報処理がなされていくのですが、その情報処理の経路は、二つに分かれています。一つは「what」の経路、もう一つは「how または where」の経路と言われますが、何故二つの経路があるのでしょうか？　答えは次回ということで。

安徳医師の診療日	月曜　午前・午後（要予約） 火曜　午前（要予約）・午後の診療は終了いたしました。

地域包括ケア病床に向かって

皆さま、はじめまして。

8月より、リハビリテーション室主任として着任いたしました、高橋徹と申します。微力ではございますが、リハビリテーションの面で、より一層地域の皆様に貢献できますよう努力して参る所存です。何卒よろしくお願いいたします。

湘南ホスピタルは平成２９年度より療養病棟の一部を「地域包括ケア病床」に転換すべく、現在準備を進めております。ここで「地域包括ケア病床」とはどういうものか、簡単にご説明させて頂きます。

主任理学療法士
高橋　徹

住み慣れた地域で暮らしを続けられる社会の実現に向けた病床（棟）として、平成２６年４月の診療報酬改定において新しく新設されました。

「地域包括ケア病棟（床）」は、在宅復帰支援計画に基づき、主治医はもちろん看護師、介護員、医療ソーシャルワーカー、リハビリスタッフ、管理栄養士、薬剤師など多職種が協力して在宅復帰を支援するのが特徴です。

急性期治療を終えても、すぐに在宅復帰するのが不安な患者様やご家族に、入院療養やリハビリの継続、在宅サービスの調整などを行うことで安心して在宅・施設に戻って頂けるようお手伝いをする病棟（床）です。また入院期間は保険診療上、６０日間までと決められていますが、軽・中等度の脳卒中や骨折、肺炎、糖尿病の教育入院など、適度な機能回復・在宅復帰支援が必要な場合に適している病床です。

当院では準備の一環としてリハビリテーション室の拡張、スタッフの増員等も進めており、コスモス訪問看護ステーションにおいても専属の訪問リハビリテーションスタッフが配置されました。地域の皆様のニーズに応えられるよう、リハビリテーションの充実も図って参ります。

そして、当院の理念である「人を暖かく迎える医療・地域の健康の守り手・高齢者をささえる医療・心を大切にする医療」にふさわしい「地域包括ケア病棟」の実現に邁進して参ります。 今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

新任の挨拶

７月より外来主任となりました中里　恵子（なかざと　けいこ）です。

私は藤沢で生まれ、辻堂で育ちました。生まれ育ったこの地で看護師として働ける事、とても嬉しく思っています。

法人の理念である「人を暖かく迎える医療、地域の健康の守り手、高齢者を支える医療、心を大切にする医療」に基づき、病院の一員として頑張っていきたいと思います。

何かご心配な事などありましたら、お気軽にお声かけください。
どうぞよろしくお願いします。

外来看護主任
中里　恵子

ラインライン クロス

入れる言葉が分かっても、その言葉をどこに入れたらよいのかで迷ってしまうパズルなのです。

やり方

◆普通のクロスワードと同じようにタテ・ヨコに言葉を入れます。
◆カギは列ごとにまとめられています。
◆例えば、ヨコ1には2つの言葉が入りますが、どのカギの言葉がどこに入るかはすぐには分かりません。文字数や交差する言葉を手がかりに解きほぐしましょう。

問題

二重枠に入った文字を枠A～枠Dの順に並べてできる言葉は何でしょう？

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1					■	枠A			
2			■					■	
3		■	枠B		■				
4				■			■		
5	■				■				■
6			■			■			
7				■			枠D	■	
8		■					■		
9				枠C	■				

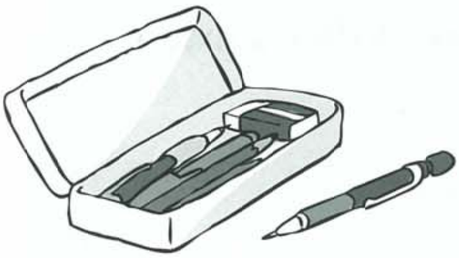
ヨコのカギ

1・秋にチンチロチンチロと鳴く
・秋にリンリンリンリンと鳴く
2・フライもおいしいオイスター
・雨天時活躍する自動車の装置
3・赤くて、手紙を入れられます
・白です。罪を犯していません
4・まな板の上ではおとなしい魚
・卵は「数の子」と呼ばれる魚
・魚を数える際に使われる言葉
5・ワインの原料になる秋の果物
・垣根の曲がり角で行われる？
6・男鹿半島がある東北地方の県
・伊勢神宮がある東海地方の県
・琵琶湖があるけど海はない県
7・土俵で戦う「おすもうさん」
・「へ」がつくものもある筋道
8・「出る――は打たれる」とか
・小豆の皮を除去して作るあん
9・ラジオ番組を聴取する人たち
・全部売り尽くして商品がない

タテのカギ

A・パスタ→たまねぎ→ぎんが…
・パスタの一種。中空で特徴的
B・十五夜に観賞する地球の衛星
・干して甘くして食べたりする
C・英国の通貨単位で、£と書く
・英国出身で、「英ノ国」というこれをつけられた相撲取りも
D・陰暦12月の、忙しそうな異称
・広くて大きい水たまり。和語
・広くて大きい水たまり。英語
E・おじさんおばさんの息子や娘
・地域や地帯。パーキング――
F・木や鉄などを平たくしたもの
・温泉や温泉保養施設を英語で
・危うきに近寄らずといわれる
G・現在の単位はヘクトパスカル
・被写体を急激に拡大する――インは、映画などで使う技法
H・特撮映画では、怪獣が歩くとズシンズシンとこれが起きる
・金づちなどを使って打ち込む
I・朝晩寒そうな陰暦11月の異称
・制球力が重要な運動会の種目

◆**応募方法** 答え、住所、郵便番号、氏名、フリガナ、年齢、電話番号をはっきり書いて、待合室横の投書箱に入れるか、ハガキで送って下さい。ハガキの場合の宛先は当院「麗日編集部」まで。1人1枚に限ります。
なお、読者の皆様からお預かりした個人情報は、当院が責任を持って管理いたします。
◆**賞金** 正解者の中から1人に1万円、2人に各5千円、20人に図書カードを抽選で。
◆**締め切り** 12月末日
◆**発表** 賞品の発送をもってかえさせていただきます。
◆**6月号の答え**「9」



HOSPITAL

湘南ホスピタル　外来診療担当表

赤字は原則として予約制です。曜日により専門科の医師が一般内科の診療も行います。　H28.10.22 から

診療科		月	火	水	木	金	土
一般内科	午前	志波	黄(麗)	松井	木原(11/24～)	松井	木原
			木原			木原	
	午後	冨田	志波	井上	堀田	冨田	
			木原(第1・3週休み)				
呼吸器内科	午前		木原		木原(11/24～)	木原	木原
	午後		木原(第1・3週休み)	井上	堀田		
消化器内科	午前		黄(麗)	黄(沾)		黄(沾) 10:00～	
	午後			黄(沾)		黄(沾)(第1・3週)	
循環器内科	午前	志波					
			志波		木村		
	午後	冨田			木村 14:30～	冨田	
総合内科	午前	志波					
	午後		志波				
神経内科	午前	安徳	安徳	松井		松井	
	午後	安徳					
精神科	午後			丸田			
整形外科	午前						吉田
糖尿病内科 内分泌内科	午前			廣井	小田		
泌尿器科	午後		木内(第1・3週)(14:00～16:00)				
栄養相談	午後				管理栄養士		
特定保健指導	午前	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士
	午後	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	
禁煙外来	午前		木原			木原	
	午後		木原(第1・3週休み)	木原(18:00～19:00)			

午前受付時間　8:00～11:30(診療開始 9:00)
午後受付時間　11:30～16:30(診療開始13:30)
電話問合わせ　8:45～11:30　13:15～16:30
休診日　土曜午後・日曜・祝日
電話:0466-33-5111

禁煙外来は水曜夕方も行っています。
仕事帰りにいかがですか?(予約制)

表紙写真募集!!

麗日1月号の表紙写真(冬の風景画)を募集します。

<応募方法>　郵送またはメール

郵送の場合　〒251-0047 藤沢市辻堂 3-10-2　湘南ホスピタル 麗日編集部

メールの場合　e-mail hospital@shohos.org

件名に麗日編集部宛と記載して下さい。

お一人様何点でも応募できます。